



学習院大学大学院 人文科学研究科 身体表象文化学専攻 学生募集案内
舞台芸術／映画／マンガ／アニメーション／ジェンダー

GRADUATE COURSE IN CULTURAL STUDIES ON CORPOREAL AND VISUAL REPRESENTATION
Thomas Eakins "Wrestlers" (1899)

身体表象

舞台芸術

映画

マンガ

アニメーション

ジェンダー

学習院大学大学院にはすでにさまざまな古典的枠組みの専攻課程があります。しかし、20 世紀後半から、そうした個別化した専攻では十分に扱いきれない学問の領域が明らかになってきました。それを私たちは「身体表象文化」と名づけ、その領域を横断的に研究する専攻課程を創始しました。

19 世紀的な学問の中心にあるのはテキスト（文献、言葉）です。しかし、現代文化は表象（イメージ）抜きでは論じることができません。20 世紀に発展した映画、アニメーション、マンガなどの芸術は、現代文化のなかに巨大な位置を占めていながら、これらを互いに関連づけ、また、先行する演劇などを含め、表象芸術の新たな展開として研究する場所がほとんどありませんでした。私たちの「身体表象文化学専攻」はその空白を埋める学問の場所です。

また、生身の役者が世界を表象する演劇、スターの身体が魅力的に映しだされる映画、「キャラクター」が時空を超えて活躍するマンガ、アニメーション。これらはすべて身体とイメージを重要な出発点とし、現代のメディア環境や産業にまで大きな影響を及ぼしています。そこではいったい何が起こっているのか？「身体表

象文化学専攻」は、この実感としては分かっているが、学問的には依然未知の領域の探究に乗りだそうとするものです。

そして、言葉と理性の絶対化からは見えてこないイメージや身体の文化的可能性について、研究の基盤を提供することも本専攻の目的のひとつです。そのために、身体表象文化の歴史や理論も深く学んでいきます。特に身体表象はそれを生み出す社会のジェンダー観と密接に関係しています。舞台芸術、映画、マンガ、アニメーションなどによって表象される「身体」は、その時々ジェンダー観を増幅・強化するだけでなく、時には既成のジェンダー観を攪乱し変化をもたらします。このような身体表象の社会的作用を分析する鍵となるのがジェンダー文化論です。

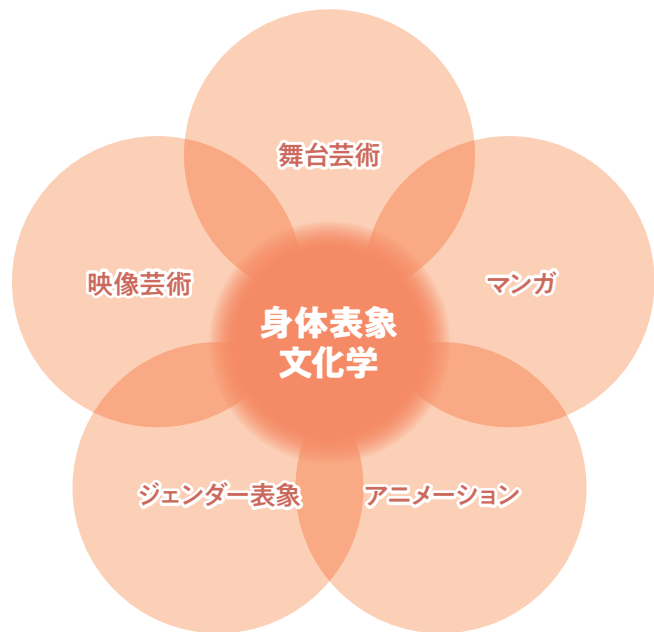
この遠大な目的のために、本専攻はさまざまな分野で活躍する一流の研究者を揃えました。学生の皆さんもその関係のなかに飛びこんで、現代文化の最先端とその本質を自分自身の身体と頭脳でとらえてほしいと思います。

舞台芸術、映像芸術、マンガ、アニメーション、ジェンダー表象という領域を言語、地域、専攻領域を超えて、身体と関わる文化学として有機的に組み合わせ、より幅広く、より深い奥行きをもって学べることが本専攻の特色です。これらの対象を身体と関わる文化背景から研究してみたいという方には最適の専攻です。

カリキュラム～何をどう学べるのか

身体表象文化学は舞台芸術、映像芸術、マンガ、アニメーション、ジェンダー表象を対象とし、イメージ媒体として身体が作り上げてきた文化的意味を問い直す新しい学問領域です。本専攻では、舞台芸術、映像芸術、マンガ、アニメーション、ジェンダー表象という領域を言語、地域、専攻領域を超えて、身体と関わる文化学として有機的に組み合わせ、より幅広く、より深い奥行をもって学ぶことができます。

「舞台芸術」「映像芸術」「マンガ・アニメーション芸術」の分野では「演習」と「批評研究」の2種類の科目を設置しており、演習科目では専門分野における基本的知識の確実な修得、批評研究科目では応用能力の開発と批評技法の修得をめざします。また、ジェンダー研究の基礎的な考え方を習得する「ジェンダー文化論演習」を設置して、ジェンダー論の観点から現代社会の問題を照射し分析する力を養います。この4分野以外にも、身体表象の制度的な枠組みを研究する「表象文化制度論演習」を設置して、現場からの視点など、身体表象文化へのより多角的・具体的な視野を身に付けます。



専攻科目(大学院科目) Graduate degree programs

舞台芸術批評研究
Studies in Theater Arts Criticism

映像芸術批評研究
Studies in Film Arts Criticism

マンガ・アニメーション芸術批評研究
Studies in Manga & Animation

舞台芸術文化論演習
Seminar on Theater Arts

映像芸術文化論演習
Seminar on Film Arts

マンガ・アニメーション芸術文化論演習
Seminar on Manga & Animation Culture

ジェンダー文化論演習
Gender and Culture Theory

身体表象文化史演習
Seminar on History of Corporeal & Visual Representation

表象文化制度論演習
Seminar on Art Management

修士論文指導
Supervision for Master's Thesis

博士論文指導
Supervision for Doctoral Thesis

学部科目 Faculty Programs

【文学部共通科目】
現代マンガ学講義
Contemporary Manga Studies: Lecture

【基礎教養科目】
舞台・映像芸術A
Stage and Picture Art A

舞台・映像芸術C
Stage and Picture Art C

専攻の教員 Faculty Members

佐々木 果 教授

担当領域：マンガ・アニメーション芸術
担当科目：マンガ・アニメーション芸術批評研究 / 文化論演習A / 現代マンガ学講義



マンガやアニメーションおよびその関連領域について広く学際的な関心を持って研究しています。マンガの編集者として創作の現場に関わっていた経験から、作品の成り立ちや文化的な問題には関心がありますが、それ以上に歴史研究に力を入れて

取り組んできました。マンガやアニメーションなどのメディアを日本だけでなくグローバルな観点から歴史としてとらえ、その上であらためて現代的な問題に切りこんでいきたいと考えています。

須藤 健太郎 准教授

担当領域：映像芸術
担当科目：映像芸術文化論演習A



フランスのヌーヴェル・ヴァーグを中心に、古今東西あらゆる映画に関心を持つことを心掛けてきました。ヌーヴェル・ヴァーグへの関心はひとまず『評伝ジャン・ユスターシュ』に結実し、時代や地域にこだわらずさまざまな種類の映画につ

いて論じた文章は映画批評集『作家主義以後』にまとめました。現在は、「編集（デクパージュ／モニタージュ）」の問題に着目し、映画と諸芸術の関係をめぐる考察を進めています。

田丸 理砂 教授

担当領域：ジェンダー表象
担当科目：ジェンダー文化論演習



さまざまな「芸術」表現における身体文化表象について、特にジェンダーの視点に注目して研究をしています。文化研究では現在、ジェンダーの差異のみならず、それがセクシュアリティ、階層（格差）、エスニシティなどと組み

合わさった交差性に目を向けることがますます求められるようになってきています。授業ではこうした複雑性を現在進行形で考えていきたいと思っています。

中野 春夫 教授

担当領域：舞台芸術、身体表象文化史
担当科目：身体表象文化史演習



国際演劇評論家協会、日本英文学会、日本シェイクスピア協会に所属。身体表象文化学専攻では、身体表象に関する歴史的な文化差異を演劇作品や図像、絵画などから系譜学的、受容史的に分析していきます。

これまで指導してきた主な領域・対象は、シェイクスピアや現代英語演劇、2.5次元舞台、ジャポニスム、演劇翻訳（論）、「恋愛」や「花」などの表象史、魔女／悪魔／魔術表象、ガーデニング（史）などです。

水野 雅司 教授

担当領域：映像芸術
担当科目：映像芸術文化論B



主に第二次世界大戦期の体験や出来事の影響のなかで創作している作家・芸術家を中心に研究をしています。現在でも戦禍や災厄に敏感に反応した作品が生み出されていますが、言語化・物語化しがたい体験や感情を伝達するために芸術家たち

がどのような表現形式の探求・創造を試みているのかという観点から、映像芸術における表現の問題について理解を深めていければと考えています。

高橋 由季子 助教

担当領域：舞台芸術
担当科目：表象文化制度論演習B



視覚芸術としての「バレエ」に注目し、近代社会文化とバレエ芸術の関わりを多角的に研究しています。古典バレエにおいては、ダンサーや登場人物表象を対象にジェンダーの視点からの分析が重要と考えており、時代ごとの理想的身体像にも関心を

持っています。授業では、バレエ表象文化に関する枠組みをとらえるために、社会文化への理解も深めていきたいと思っています。

飯岡 詩朗

担当領域：映像芸術
担当科目：映像芸術批評研究A

非常勤講師

信州大学教授。第二次世界大戦終結後から1950年代にかけてのハリウッドの転換期における映画と隣接する複数のメディアの交渉や収束を研究。また、NPOによる自主上映活動に携わりながら、地方における映画上映・受容史の調査を行う。

原 瑠璃彦

担当領域：舞台芸術
担当科目：舞台芸術批評研究

非常勤講師

専門は日本の庭園、能・狂言。著書に『洲浜論』『日本庭園をめぐる——デジタル・アーカイブの可能性』（2023）。坂本龍一＋野村萬斎＋高谷史郎 能楽コラボレーション「LIFE-WELL」（2013）、「翁プロジェクト」（2020-）等でドラマトウルク担当。庭園アーカイブ・プロジェクト リーダー。

原口 正宏

担当領域：マンガ・アニメーション芸術
担当科目：マンガ・アニメーション芸術文化論演習B

非常勤講師

専門は日本の戦後商業アニメーション史における製作会社の成立と分派。著書に『TVアニメ25年史』、『劇場アニメ70年史』、『タツノコプロ インサイダーズ』、『前略、押井守様。』、『富野由悠季全仕事』など。徳間書店「アニメージュ」誌の編集・執筆に関わって今年で40年となる。通称「データ原口」。

松井 憲太郎

担当領域：舞台芸術
担当科目：表象文化制度論演習A

非常勤講師

元・富士見市民会館キラリ☆ふじみ館長。演劇制作の専門家で、世田谷パブリックシアターをはじめ多くの舞台の企画制作を手がけてきた。公共芸術のあり方、アジア演劇等にも幅広い眼をもつ。

横山 義志

担当領域：舞台芸術
担当科目：舞台芸術文化論演習B

非常勤講師

SPAC-静岡県舞台芸術センター文芸部国際舞台芸術祭のために世界各地を訪れて演劇状況を調査する傍ら、古代ギリシアから今日に至るまでの西洋演技理論史に関する研究を発表。

鷲谷 花

担当領域：映像芸術
担当科目：映像芸術批評研究B

非常勤講師

専門は映画学、日本映像文化史。著書に『姫とホモソーシャル:半信半疑のフェミニズム映画批評』（青土社）、翻訳にジル・ルポール著『ワンダーウーマンの秘密の歴史』（青土社）など。『ユリイカ』、『現代思想』、『POPEYE Web』等に映画論を寄稿。

研究テーマ（論文タイトル）List of Graduation Theses

■ 修士論文（※2017～2024年度分）

2017年度

- 日本における「声優」の歴史と役割の検討―映画史の視点から
- 百合ジャンルの研究
- ジャン・ルーシュ論―民族誌映画の変遷
- 現代日本社会における覇権的男性性の変容
―男性誌における表象分析から

2018年度

- 大島渚の戦後日本映画論
- アントナン・アルトーの方法意識
- 戦前日本における記録映画の諸相
- BLマンガ・中村春菊『純情ロマンチカ』中国版の中国女性オタク受容の傾向
- 矢沢あい『NANA』のファッション描写にみられる女性像
- 現代日本における女性の髪の表象―『髪喪失』に注目して

2019年度

- 真崎守研究
- 中国のウェブマンガにおける日本の「萌え」の受容
―女性キャラクターを中心に
- 視覚化する二次創作のキャラクター受容
―中国ネット小説の女性向け二次創作と「応援」から考える
- アッバス・キアロスタミ研究
- 2.5次元舞台の特異性―『刀剣乱舞』の受容と表象

2020年度

- 大島弓子の家族論
- 「24年組」中心史観と少女マンガ言説の再検討

2021年度

- 映画における動物の映像技法―『ペイブ』の「話す」動物に注目して
- モリエール作品についての研究―コメディ＝パレエを中心に
- BLCDにおける女性のセクシュアリティ
- 萩尾望都における「ムード」の表現
―『ポーの一族』に描かれた三つの世界とリボン、風、星

2022年度

- テニスマンガ『ベイビーステップ』研究―そのリアリズムに着目して
- 新海誠研究―背景に生命を吹き込むモノログと音の技法
- セックスワークとその言説・表象
- 是枝裕和作品研究
- インターネット文化における「メンヘラ」現象
―女性の周縁的アイデンティティ

2023年度

- アメリカ映画における日本人表象
- 実相寺昭雄論
- 今敏のアニメーション作品における「演じる女性」の表象
- イングマール・ベルイマン研究

2024年度

- 2.5次元ミュージカル作品におけるスポーツ表象
- 妖怪アニメーションの変容―中間的なキャラクターを手がかりに
- マンガにおけるイレズミ表象を巡って
- 少女マンガにおける「転生」の表象と機能
- セシル・B・デミル研究

※2016年度以前の修士論文タイトルは、身体表象文化学専攻公式HPから閲覧可能です。

■ 博士論文

- 空間創造と位相の身体―オスカー・シュレンマーの舞台芸術理論
- マンガ版『風の谷のナウシカ』における生成論的研究
―コミックス成立時における改稿から見た作品分析
- 日本のマンガ・アニメにおける「戦い」の表象
- 映画における屠畜・食肉の表象
―フランスとアメリカの作品の検討を中心に
- 19世紀西洋演劇におけるジャポニズム―「日本」の表象の変遷
- 近代視覚文化としてのマンガ
―その文化史的 위치づけと美学的意義について
- フランスにおけるロマンティック・パレエの隆盛と衰退
- ポール・クロデル研究―《リズム》演劇構想の成立と展開

講演会 Lectures

これまでに開催された講演会の一例をご紹介します。
（肩書・所属等は開催当時のものです）

【演劇公演会】

「学習院リーディングセッション『RUR』」
プロデュース団体「戯れの会」

【講演会】

「表現とセクシュアリティーズ」
対談：田亀源五郎（漫画家）×溝口彰子（学習院大学非常勤講師）
司会：エスムラルダ（ドラァグクイーン）

【講演会】

「ジャック・リヴェットの映画における身体の演劇性」
アンヌ＝ガエール・サリオ（デューク大学ロマンス諸言語研究学科准教授）

【講演会】

「新宿、渋谷、青山、下北沢―街の変遷から見る'80年代小劇場演劇史」
対談：高泉淳子（俳優、劇作家、演出家）／篠井英介（俳優）
司会：立石和浩（東京芸術劇場 プロデューサー）

【研究フォーラム】

「コマ割漫画の始まりと旅の文化」
夏目房之介（学習院大学教授）／森田直子（東北大学大学院情報科学研究科准教授）

【講演会】

「アートとジェンダー、セクシュアリティ」
溝口彰子（学習院大学非常勤講師）／笠原美智子（アーティゾン美術館副館長）／
プブ・ド・ラ・マドレーヌ（アーティスト）／森栄喜（写真家）

【講演会】

夏目房之介教授最終講義「マンガ研究はなぜ面白いのか」
夏目房之介（学習院大学教授）

【上演・鼎談会】

大貫敦子教授退職記念企画
「点から線、そして身体へ――『ホモソーシャルダンス』『片袖の魚』上映＋トーク」
大貫敦子（学習院大学教授）／東海林毅（映画監督）／溝口彰子（学習院大学非常勤講師）

【講演会】

中条省平教授最終講義「自己形成の十字路――破壊的性格の時代を生きて」
中条省平（学習院大学教授）

学内学会 Society

■ 学習院大学身体表象文化学会

2017年4月に設立された本専攻の在学生、卒業生、新旧教職員を構成母体とした学内学会です。本学会では、身体をめぐる表象文化研究の発展に寄与すべく、会員に研究成果の発表の場を提供すること、そして、会員内の親睦を図ることをおもな目的として掲げ、①大会・例会の開催、②学会誌『身体表象』の発行（デジタル刊行）の2つを中心とした活動を積極的に行っています。

研究支援 Scholarship Programs

学習院大学大学院人文科学研究科は大学院生の研究活動を経済的にも支援しています。

特別研究費	申請者全員に支給 博士前期課程5万円／博士後期課程20万円
返還不要の奨学金	■博士後期課程給付奨学金 年間授業料の3分の1相当額。 ■安倍能成奨学金 45万円（例年、研究科から7名程度） ■学習院大学学業優秀者給付奨学金 30万円（毎年専攻から、博士前期課程の院生1名） ■教育ローン金利助成奨学金 申請により金利の一部（上限5万円）
TA・RA制度	多くの学生がTA（ティーチング・アシスタント）・RA（リサーチ・アシスタント）としてアカデミック・キャリアを積んでいます。TA・RAには、報酬が支給されます。
学会発表への補助	国内：交通費と宿泊費（1泊5千円）を補助。 海外：交通費・宿泊費の一部を補助。 （渡航地域により金額は異なります）
博士論文刊行助成	博士論文刊行の費用を、50万円まで助成します。

先輩からのメッセージ Messages from Students

中田 真梨子

博士後期課程

身体表象文化学専攻の進学を希望した理由は、中条省平教授の本を読んで、先生の指導のもと映画研究をしたいと思ったからです。私は映画における動物表象の研究をしています。
中条ゼミで「映画の論じ方」を学びつつ、演劇、マンガ・アニメーション、ジェンダー研究を専門とする教員／学生からの意見も参考にし、自分の研究を深化させるよう日々努めています。本専攻の最大の魅力は、自分の専門領域できちんと基礎を固めながら、多角的な視点も取り入れられることです。自分の興味・関心について探究したいと考えている方は、ぜひ一緒に切磋琢磨していきましょう。

中島 望

博士後期課程

私はアニメーションにおける《心象風景》について興味があり、このテーマを多角的な視点から捉えたいということから本専攻に進学しました。
在籍する佐々木ゼミをはじめ、各ゼミでは、学生一人一人が自分の研究テーマについて発表する場を設けられるので、毎回議論が飛び交います。そこでは、個々が得意とする分野の知識や情報をシェアし合い、教授や先輩からの明確な意見をいただきながら、自分の研究をより深められる有意義な時間を過ごしています。ゼミだけではなく、身体表象事務室のサポートも充実しており、院生活での悩みや研究についての相談などを真摯に聞いてくださるので、心身ともに心強い環境で研究を進めていけると思います。

胡唯伊

博士後期課程

私は元々アニメーション作家であり、今敏のアニメーション作品における演じる女性の表象を研究するために本専攻に進学しました。
佐々木ゼミでは、各分野の文系研究者から現役漫画家まで、異なるバックグラウンドを持つ方々が集まり、熱い議論やアイデアの交換が行われます。自分のゼミ以外にも、本専攻の他の方向の授業にも自由に参加できるため、学生同士が刺激し合いながら成長する環境です。
留学生は少数ですが、専攻の院生先輩にチューターとして指導してもらう制度があり、事務室のサポートも充実しているため、研究生活を安心して送ることができます。アニメ・マンガに興味を持ち、深く研究したい方には、是非とも本専攻をお勧めします。

本専攻では、従来の専攻領域・専門分野では十分な教育ができなかった対象について、専門的な知識を持つ研究者を養成し、舞台映像関係の分野で文化事業に関わる職を志す人材や、現行の学芸員資格がカバーしていない職種で活躍しうる人材を育成していきます。

進路と就職先 Career

■ 教育機関

学習院大学、麻布大学、跡見学園大学、慶應義塾大学、啓明大学校、自治医科大学、城西国際大学、浙江樹人大学、玉川大学、中央大学、東京大学、東京工芸大学、フェリス女学院大学、明治大学、立教大学、早稲田大学、日本外国語専門学校、日本健康医療専門学校、上海日本人学校高等部　ほか多数

■ その他

アンスティチュ・フランセ東京、川崎市市民ミュージアム、国立新美術館、松竹株式会社、新国立劇場運営財団、株式会社寿限無、東急ステイサービス株式会社、フランス大使館、ミネルヴァ書房、株式会社和光、漫画家、翻訳業　ほか多数

身体表象文化学専攻では、次に掲げる知識・能力や目的意識・意欲を備えた学生を、各種選抜試験を通じて受け入れます。

■ 博士前期課程

知識・技能

1. 舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション芸術、ジェンダー表象の4つの分野のうち1分野に関して、専門的な知識を身につけている。

思考・判断・表現

2. 専門的知識と広い文化的関心とをバランスよく示す文章を書くことができる。

関心・意欲・態度

3. 大学の学部におけるリベラル・アーツ的な広い教養と、文化全般に対する自発的な関心を持っている。

■ 博士後期課程

知識・技能

1. 舞台芸術、映像芸術、マンガ・アニメーション芸術、ジェンダー表象の4つの分野のうち1分野に関して、専門的な知識を身につけるとともに、自身の研究主題とその周辺の知的領域について深い思考を有している。

思考・判断・表現

2. 専門的知識と広い文化的関心とをバランスよく示す文章作成能力を持ち、適宜、必要十分な長さの論文を書くことができる。

3. 扱う主題に関して従来の諸研究とは異なった視野を開く獨創性を持っている。

関心・意欲・態度

4. 専門的問題の特殊性に自足することなく、自身の論題を普遍的な文化の問題として同時代の読み手に向けて発信する開かれた精神的姿勢を持っている。

入試情報 Admissions

■ 入試説明会

例年8月と10月の2回開催

■ 入学試験

- ・ 秋期入学試験 9月
- ・ 春期入学試験 2月

入試情報および資料請求

学習院大学ホームページの「入試情報」をご覧ください。
<https://www.univ.gakushuin.ac.jp/admissions/>



	博士前期課程	博士後期課程
募集人数	約10名	約3名
試験科目	・ 外国語（英・独・仏から選択） ・ 選択した領域に関する論文 ・ 口述試験 ※選択する領域は以下のいずれか1つとします。 - i 舞台芸術／ii 映像芸術／iii マンガ・アニメーション芸術／iv ジェンダー表象	



レップ
学習院大学身体表象文化学専攻
オリジナルキャラクター

専攻に関するお問い合わせ

学習院大学大学院 人文科学研究科 身体表象文化学専攻

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
TEL：03-5992-1404／FAX：03-5992-1247
E-mail：cscvroff@gakushuin.ac.jp
URL：https://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/cult/

